

| 羅 針 盤                               |  |   | 方 策   | 点検・評価 |          | 達成度 | 達成状況のまとめ及び次年度の課題  | 学校関係者評価  |
|-------------------------------------|--|---|---|-------|----------|-----|---|--|
| 評価対象                                | 評価項目                                   | 具体的数値項目   |   | 自己評価  | 外部アンケート等 |     |   |  |
| I 特色ある学校づくりに努めていますか。                | 1 特色ある教育活動を行っていますか。                    | ①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。   | ・あっとほーむ長野原の具現化。生徒のニーズを吸い上げ、満足度の高い学校生活が送れる環境を整える。  | C     | C        | C   | 昨年と比較するとポイントが下がってしまった。次の項目での学校行事や生徒会活動に満足している生徒の割合も減ってしまった。より多くの生徒が満足感や充実感が得られる教育活動を推進できるよう生徒の意見を吸い上げ、学校生活に反映できるようにしたい。生徒の意見では「アットホームな雰囲気が良い」、「先生との距離が近く話しやすい」という意見が多かった。                       | ・丁寧に面倒を見ていただき先生方の一生懸命さを肌で感じている。<br>・吹奏楽部の演奏会は、少ない人数でも工夫した内容で取り組み、生徒が自信をつけた活動であったと思う。またそのような頑張りが地域へ良い影響を与えている。<br>・町の農業に目を向けた取り組みがある<br>とよい。<br>・ジオパーク学習を軸に探究活動を活発化させて欲しい。<br>・小学校、中学校と連携が大切である。一緒に行う行事を企画できるとよい。 |
|                                     |  | ②学校行事や生徒会行事（スポフェス、ハッ場ウォーク等）に満足している生徒が90%以上である。  | ・生徒の主体性が発揮され、満足感・充実感の得られる形の行事を実践できるよう支援する。  | B     | C        | C   | 学校全体での取り組みを考えたときに、「多様性を尊重し、協働する力の育成」ということがポイントになると考えられる。「お互いが満足できる視点」で行事や生徒会活動を計画し、生徒が主体的に楽しく活動できるようサポートしていきたい。   |  |
|                                     |  | ③ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業（花いっぱい運動、地域探究活動、大型紙芝居上映・読み聞かせ会、ジオパーク行事、地域文化祭、特色ある資格取得）に積極的に参加していると感じている生徒が80%以上である。 | ・ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業や総合的な探究の時間を中心とした活動において地域を理解し、主体的に地域に関わる取り組みができるように支援する。             | A     | A        | A   | 多くの生徒がぐんまコミュニティー・ハイスクール事業に積極的に参加している。活動の中に「社会をより豊かにするための学び」や「自ら考え、判断し、行動できる力」が育成でき、生徒一人ひとりの成長を感じる。今後は小・中学校等と協力した事業や農業に目を向けた取り組みを計画していきたい。既存事業は地域から求められる活動となるよう関係機関と協力し、改善を図りたい。                 |  |
| II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。     | 2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。                 | ④授業は丁寧で分かりやすいと実感できる生徒が90%以上である。   | ・定期的な研修の実施と教員相互での授業評価や生徒の授業アンケートを授業改善に生かす。<br>・生徒の学力に応じた丁寧できめ細かな指導を実践する。                | A     | A        | A   | ほとんどの生徒が、授業が丁寧でわかりやすいと感じている。生徒の学力や特性といった実態把握を徹底し、引き続き生徒に寄り添ったきめ細やかな指導を継続したい。  | ・生徒の発表を聞いて、生徒一人ひとりが様々なことにチャレンジしている様子が伺える。自分の言葉として表現できる力もついている。<br>・社会に出た時に企画力がとても大事になってくるので生徒主体で計画できるように指導して欲しい。   |
|                                     |  | ⑤少人数指導や習熟度別学習、学び直しに、生徒の90%以上が満足している。  | ・学習形態に満足している生徒が多く、継続して双方向的な授業を心がける。   | B     | C        | C   | 少人数授業や習熟度別授業を良い点として捉えている生徒も多い。生徒の学力や特性に応じた体制づくりを進め、個別最適な学びを実現できる学習環境を整えることが必要である。   |  |
|                                     | 3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。                  | ⑥学力が着実についていると、生徒の90%以上が実感している。  | ・生徒の能力や希望に応じた、きめ細かな個別最適な指導の充実を図れるよう職員全体でのスキルアップに取り組む。                                   | C     | D        | C   | 学力が定着していると実感している生徒が少ない。生徒の理解しやすい授業展開やデジタルツールを活用した主体的な学びが展開できるよう工夫していきたい。また、基礎学力の定着のための自主学習やこまめにテストなどを取り入れ、学力の把握ができる機会を作っていく。  |  |
|                                     |  | ⑦進路目標に応じた学力を身につけていて自己評価している生徒が80%以上である。   | ・基礎的な学習の学び直しや、個別指導を充実させ学習の定着を図る。学習状況を継続的または定期的に観察・記録し、各教科の学習内容について、将来の進路に結び付けられる運用を行う。  | B     | C        | C   | 進路目標に対する学習の在り方を入学年次から計画的に進めることが課題である。また、進路目標に応じた個別指導を充実させ進路決定につなげられるようにしたい。   |  |
| III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。    | 4 組織的・継続的な指導を行っていますか。                  | ⑧職員会議・学年会議・生徒指導部会議・教育相談部会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上おこなっている。  | ・各会議の情報交換から情報共有を図り、組織的な指導・援助につなげる。  | A     | A        | A   | 生徒の情報交換が会議以外でも頻繁にあり、担任だけではなく学年や科目担当等も生徒の実態がつかめている   | ・通学路で大きな声でしっかりあいさつができる生徒が多い。<br>・生徒への積極的な声掛けを継続し、いじめやSNSなどの問題にも丁寧に対応して欲しい。   |
|                                     |  | ⑨いじめ防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていますか。  | ・職員研修の定期的な実施、生徒への声かけ・面談・アンケートを通じ、職員全体で研修内容を実践して、未然防止に努める。<br>・生徒会を中心としたいじめ防止啓発活動を実践する。  | A     | A        | B   | 定期的な職員研修が実施できた。しかし、生徒会が主体となっていないいじめ防止啓発活動が実施できていない。3年生はいじめ防止に対する評価が高いが、1年生は評価が低い。生徒の成長に合わせた支援を行いながら、生徒同士はもちろん、教員との信頼関係の構築ができる環境設定や言葉がけを継続して実施していく。  |  |
|                                     |  | ⑩悩みや相談事に先生方はすぐに対応してくれていると答えている生徒が90%以上である。  | ・生徒の小さな変化を見逃さず、情報共有を行い、相談は時間を惜しまず真剣に対応する。<br>・生徒の悩みや相談事に迅速に対応するため、相談申込フォームを活用する。        | B     | C        | C   | 生徒の悩みや相談については学級担任や養護教諭、スクールカウンセラーを中心に丁寧に対応している。また、今年度の方策として設定した、教職員間の情報共有も十分に行うことができた。今後はより迅速な対応ができるよう体制作りを強化していきたい。  |  |
| 5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。 | 6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。            | ⑪自ら校則に準じた「身だしなみ」をし、「あいさつ」でき、「ルール・マナー」を守る生徒が80%以上である。  | ・生徒が主体的に学校生活を送れる環境づくりを支援できるように、教員自ら挨拶を行う。また、問題を自分事として改善できる生活指導スタイルを考え、実践していく支援を行う。      | A     | A        | A   | 長野原高校の良いところとして「みんなが挨拶できる高校」を挙げる生徒がいるなど、主体的に学校生活を送る環境基盤が整っていると言える。また、校則に準じた身なりやマナー、ルールについては生徒が互いに声を掛け合い、より高め合えるような環境作りを進めていきたい。  |  |
|                                     |  | ⑫3年間を見通した進路指導を行い、その指導を理解している保護者・生徒が90%以上である。  | ・3年間の進路計画を明確にし、各学年での段階的な指導と、家庭との連絡を密にして生徒個々に応じた指導をおこなう。                                 | A     | A        | B   | 3年間を見通した進路指導を行っている部分でも、それが生徒に明確に理解できる形・見える形になっていないことが課題である。職員にも明確にできていない面もある。より明確な段階的指導となるよう、指導内容と指導方法を改善し、共通理解のもと、効果の上がる指導を行いたい。   |  |
| IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。     | 8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。 | ⑬自己の進路実現に向け、学習や部活動、面接指導、資格取得、インターンシップ等に積極的に取り組んでいる生徒が、90%以上である。   | ・学年に応じて効果的な行事を実施する。また事前・事後学習を充実させ進路意識の向上を図る。  | B     | C        | C   | 生徒、保護者、職員とも、目標を達成できていない。生徒の自己評価に比較すると、保護者と職員の評価は低くなっており、もう一步積極的に取り組んでほしいとの期待が窺える。効果的な行事を行い、事前・事後学習も充実させるための取組はされているが、他の行事との兼ね合いから、十分な事前・事後学習の時間が確保できていない現状もあり、その調整が十分に取れていないことも課題であると思われる。      |  |
|                                     |  | ⑭本校ホームページで本校の取り組みや生徒の活動の様子がわかることができ、満足している保護者が80%以上である。   | ・ホームページの内容を充実させる。特色的な行事や、活動の様子がわかる内容をブログ形式で数多く発信する。また保護者サイトを充実させ、学校での生徒の様子が伝わるようにする。    | A     | A        | A   | 行事や活動の様子がブログなどを数多く配信し、学校の様子を発信できた。保護者ルームは、弁当注文やスクールカウンセラー等との面談予約、PTA通信など各種便りなどの閲覧が可能で、保護者に情報を発信することができた。個人情報の取り扱いに留意して、インスタグラムなどのSNSを活用して、学校の様子を発信していきたい。                                       | ・学校ではよい取り組みを多く行っているが、地域にその良さが伝わっていないことが多い。積極的にアピールできるように改善して欲しい。<br>・生徒視点での広報活動を増やせるとよい。   |
| V 開かれた学校づくりに努めていますか。                | 9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。             | ⑮学校の教育活動を理解してもらうために、学校公開日等を設定し、地域住民や保護者が生徒と交流できる機会を設けている。   | ・ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業やPTA活動に関わる行事参加を地域住民や保護者に促し、お互いに学び合いができる環境を提供する。                     | A     | A        | A   | 保護者や地域住民が学校に気兼ねなく来校できるように、新たに学校公開日等を設定した。地域住民参加の花いっぱい運動などの行事の他、授業参観などを行った。防犯に努めながら、これらの学校公開日を増やしていけるように検討したい。   |  |
|                                     |  | ⑯デジタルツールを積極的に活用し、生徒が主体的に学べた授業に生徒の90%以上が満足している。  | ・デジタルツールを効果的に活用し、生徒が主体的に学ぶことができる研修を実施する。<br>・計画的に情報活用能力と情報リテラシーの向上を図る。                  | A     | A        | A   | ICT活用の頻度・質ともに高い水準にあり、教員側の主観的な取り組みと生徒の反応が良好に合致した。今後は「どのツールを使うか」ではなく「どう学びに繋げるか」に焦点を当てた、より実践的な事例の研修や生徒が自律的にツールを使いこなす力を養っていく。   |  |
| VI 教育デジタル化に努めていますか。                 | 10 ICTを活用した指導を行っていますか。                 | ⑰通知やアンケートのデジタル化に、生徒・保護者の90%以上が満足している。   | ・生徒や保護者への連絡等に、GoogleWorkspaceやGSNメール連絡網、スマート連絡帳を積極的に活用する。<br>・対応できない保護者に対するフォローを丁寧にこなす。 | A     | A        | A   | Google Workspaceやスマート連絡帳の積極的な活用が、家庭側の利便性向上に直結した。現在は「通知・アンケート」といった一方向、または回収目的の活用が主であるが、今後は「集計結果の即時共有」や「意見交換」など、デジタルならではの双方向性を活かした、より質の高いコミュニケーションへの発展させたい。また、対応が難しい保護者に対して、継続的に全職員で丁寧にフォローを行いたい。 |  |
|                                     |  | 11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。  |   |       |          |     |   |  |